

ファッション・ブライダル教育の検討

学生授業評価からみた授業内容に関する考察 その1

An Examination of Fashion and Bridal Education from the Standpoint of Student Evaluation of Course Content Part1

東口 依未 平林 由理 浅田 真理子 千森 督子

Emi Higashiguchi, Yuri Hirabayashi, Mariko Asada, Tokuko Chimori

要約

和歌山信愛女子短期大学生活文化学科生活文化専攻では、5つの学びの領域を置き、ライフデザイン分野において「ファッション・ブライダルコーディネイトⅠ・Ⅱ」を開講している。本稿は、この授業を履修した学生を対象にアンケートを実施し、授業内容の改善や向上を目指すものである。また、受講生のライフデザインにどのように影響を及ぼしたかについて調べ、今後の授業展開を考察する。

はじめに

和歌山信愛女子短期大学(以下、「本学」とする)生活文化学科生活文化専攻(以下、「本専攻」とする)では、社会で役立つ実践力を養い、感性豊かな創造力のある人材を育成することを目標として、5つの学びの領域を置いている¹⁾。ライフデザイン分野では、「ファッション・ブライダルコーディネイトⅠ・Ⅱ」において、ファッションコーディネイトの基礎やブライダルに関する知識習得のための授業を展開している。

この科目は、ファッションの知識やウエディングへの憧れ、華やかに見えるブライダル業界の仕事など、若い女性が興味を持って学びたいと思われる科目として、少なからず本専攻への入学者増に資している科目といえる。学内で演習ができるよう設置された「ブライダル演習室」は、オープンキャンパスなどでもイベントの目玉としてさまざまな内容を試み、高校生の関心を引いている。

この科目は、ブライダルプランナーを養成するための専門課程としての科目ではなく、むしろ、感性を養い、自身や周囲の人が結婚するときに知識があれば、より充実したセレモニ

ーを創り上げることができ、豊かなライフデザインを築けることを目標にしている。

そこで、この科目に対する学生授業評価アンケートを実施し、現状のカリキュラムに対する満足度を調べ、改善点を明らかにすることで、より充実した授業展開がなされるよう、また就職やその後のライフデザインに資することができるよう授業内容に関する考察を行うこととした。

授業の概要

当該科目は、1年次前期に「ファッション・ブライダルコーディネイトⅠ(以下、適宜Ⅰとする場合がある)」、同後期に「ファッション・ブライダルコーディネイトⅡ(以下、適宜Ⅱとする場合がある)」を開講し、Ⅱの受講にはⅠの受講が条件となる。

Ⅰでは、色彩の基礎やファッションへの取り入れ方などコーディネイトの基本を習得する他、和装の知識やゆかたの着付け演習、ブライダル会場見学なども行う。

Ⅱでは、現役ブライダルプランナーを招き、プランナーの業務内容や心構え、ウエディングに関する知識や演出方法などを幅広く学ぶ。また、現場で活躍する衣装やヘアメイクのプロ

から、ドレスや美容に関する知識を学び、授業の集大成として学生がコーディネートする発表会を行っている。発表会は、グループごとに花嫁役、アテンド役など役割分担を行い、コーディネートのポイントなどを説明しながらショー形式で行う。

当該科目は平成 25 年に開講したが、受講学生の傾向や外部講師との連携状況により、年度毎に多少の変更を加えながら行っている。

調査方法

調査対象：生活文化専攻 63 期生のうち、1 年次に開講される

当該科目を履修した学生 38 名²⁾

調査時期：平成 28 年 9 月

調査方法：アンケート形式で無記名による回答

調査結果及び考察

ファッション・ブライダルコーディネート I・II を履修した学生に、科目履修をした理由を質問したところ、「楽しそうだから」という答えが半数以上を占めていた。次いで多いものが「将来自分の結婚式の参考になりそうだから」であった(図 1)。

普段の生活ではファッションやブライダルについて学ぶ機会がなく、この機会に学びたいという意見やブライダルという内容が特殊であることから興味を持ち科目履修をした学生が多かった。

実際に女子学生がファッションにどれだけ興味を持っているかを調査するため、ファッション雑誌の定期購読の有無、雑誌の中で興味のあるページについて調査を行った。すると履修者の大多数がファッション雑誌を定期的に購読しており、特にコーディネートに多くの興味、関心を持っていることがわかった。また、メイクや流行にも興味、関心を示していることも明らかになった(図 2、図 3)。

この授業で習得した知識の活用場面について質問したところ、「日常生活で活用したい」という意見が一番多く、次に多いのが「将来自分の結婚式で活用したい」という意見だった(図 4)。ファッション分野での知識活用においては色彩やメイク・ヘアスタイルを考慮したコーディネートを外出時に取り入れているという答えが多数あがった(図 5、図 6)。また、この授業が役に立ったかという質問に対しても、「役に立った」という意見が大多数を占めていた(図 7)。

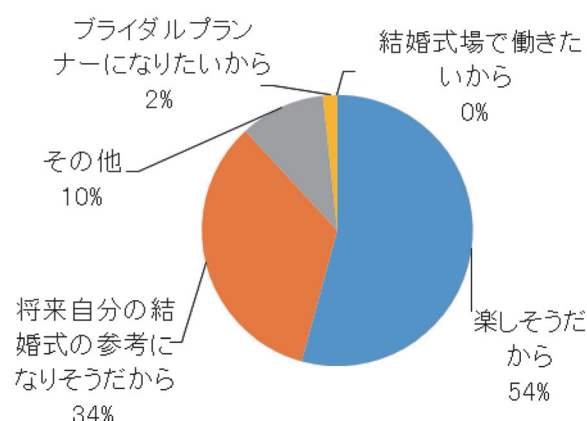


図1 履修理由について

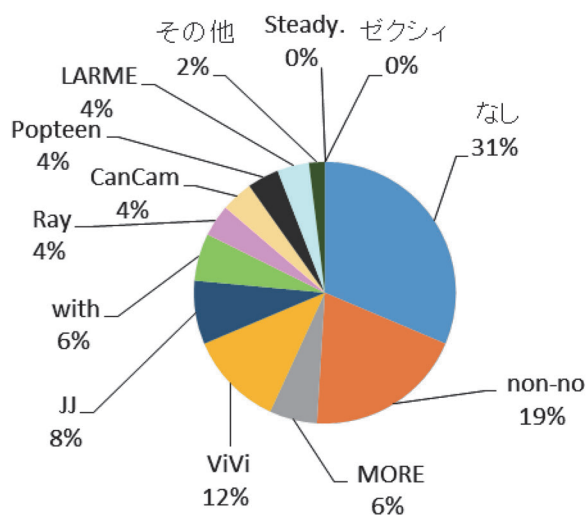


図2 定期購読しているファッション雑誌

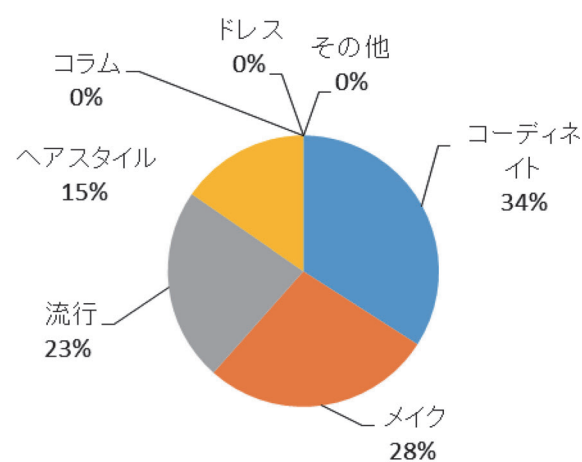


図3 ファッション雑誌で興味のあるページ

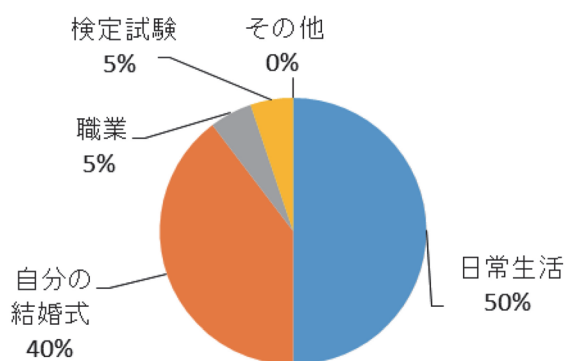


図4 授業で得た知識利用について

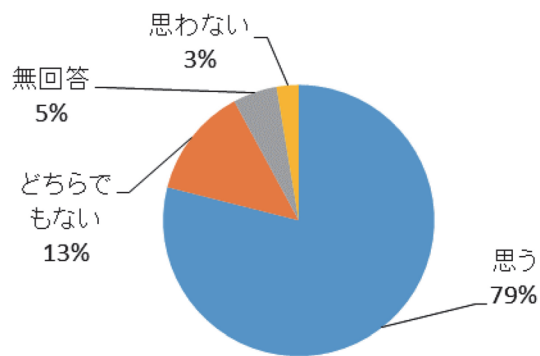


図7 授業は役に立ったと思うか

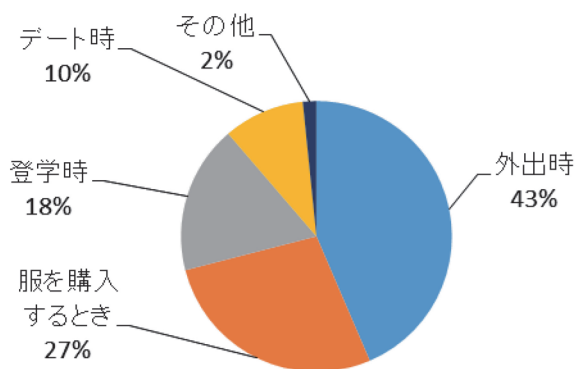


図5 コーディネイトの活用場面(色彩)

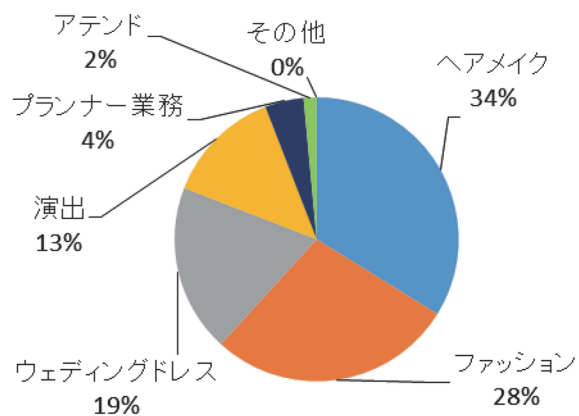


図8 より学んでみたい分野

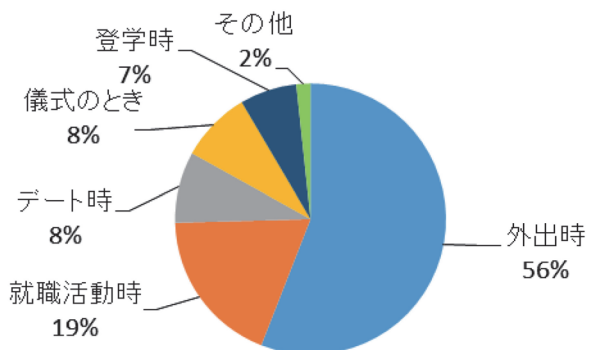


図6 コーディネイトの活用場面
(メイク・ヘアスタイル)

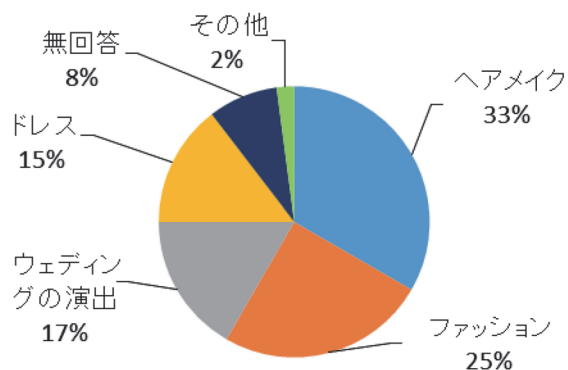


図9 充実させると良いと思う分野

ファッション・ブライダルコーディネイトⅠ・Ⅱの授業は学生にとって興味関心を持って履修でき、学んだ知識を日常生活や将来のライフデザインにおいて活用できる科目である。また、今後の生活を送る上でも活用していくことのできる科目であることが証明された。

この授業で学んだ分野の中で、より学んでみたい分野に関する質問を行ったところ、「ヘアメイク」との答えが一番多く得られた。次に多かったのはファッション分野だった(図8)。今後、充実させると良い分野についての質問でも同じような結果が得られ、「ヘアメイク」と答えた学生が一番多く、次いで「ファッション」という意見だった。「ヘアメイク」と答えた理由として、「ヘアメイクが好きだから」「女性は化粧をしないといけない」「日常でも役立つ、活用できる」「就活メイクを教えてください」「就職活動においても役立つ」「実際にメイク実習を体験してみたい」という意見があった(図9)。

また、「ファッション」と答えた理由については、「生活の中で一番身近なものだと思う」「日常で活かしていける」「制服がないのでファッションについて学べたらいい」「TPOに合ったファッションを知っておくと良いと思う」という意見があった。総合すると、ファッション、ヘアメイクの分野の充実を希望しているといえる。

ファッション・ブライダルコーディネイトⅠ・Ⅱの授業のカリキュラムは、合計30回の内18回をブライダルの分野に費やしている。ヘアメイクについては、1回しか実施しておらず、現役ヘアメイクスタッフによる講習を受けるが、内容は、ブライダルでのヘアメイクが中心である。

そのため、就職活動や日常生活で活かせるヘアメイク講習にはなっていない。また、1時間という限られた時間しかないこともあり、モデルにヘアメイクを施しているのを見学するだけで、学生一人ひとりがヘアメイクの体験をするといった実習形式ではない。モデル役にならなければヘアメイクを実体験できないため、学生間でも不公平感が生じ、より充実させてほしいと感じたのかもしれない。

ファッションについても同様で、30回中7回となっている。ただし、ファッション分野自体、とても幅広く奥深いため、7回で内容を網羅することは困難である。そのため分野の一部を抜粋して授業を展開せざるを得ず、内容が浅くなってしまい、学生には物足りなく感じたのかもしれない。他の授業でもフォーマルファッションについて取り上げられているが、更なる充実を希望している学生もいたようだ。

施設設備や備品についても質問を行った。ブライダル演習室にある授業や発表会で使用するブーケやアクセサリ、小物類の充実について質問したところ、「充実している」という答えが多く得られた。しかし、反対意見も少なからずあり、「その中でもバリエーションをもっと増やしてほしい」という意見が最も多く、「古いものや破損しているものもあり、新調してほしい」といった意見も見受けられた(表1)。

表1 施設設備、備品の充実について

	はい	いいえ	無回答
ブライダル演習室やドレス等の備品は充実していたか	29名	8名	1名

ファッション・ブライダルコーディネイトⅠ・Ⅱは学生にとっては日常生活や就職活動、将来への知識活用への期待、女子学生ならではのおしゃれへの興味関心から履修している者が大多数であることが考えられる。そのため、今回の調査を基に、今後の授業のあり方を検討していく必要がある。

授業カリキュラムに関しては、ファッション分野の見直しが求められる。例えば、ファッション分野の授業時間数を増やすことも一つである。また、ファッション分野でも、関心を持つ学生が多いコーディネイト術について、重点的に授業展開していくことも学生にとって充実した内容になると思われる。

ヘアメイクの分野では、授業時間数を増やす、一人ひとり体験できるような実習形式にしていく、日常生活やブライダルだけではなく、就職活動での場合などいろいろなTPOに合ったヘアメイクの技法やアレンジの講習を取り入れるといった改善を行うことで学生の期待に応え、充実した授業内容になると考えられる。

施設設備や備品においては、学生の指摘にもあるように、開講当初購入したドレスの型古や変色、使用により劣化したものが多数あり、アクセサリの破損も目立ってきた。また、流行を考慮し、随時入れ替えを行っていく必要があるといえる。

職業意識に関してウエディング業界のイメージについて質問を行った(図10)。良いイメージを持っている意見が多かった。しかし、ブライダルプランナーの仕事の大変さも感じているようである。

また、前述のとおり、職業へ知識利用を考えている学生は極めて少ない(図4)。

本専攻学生は、事務職への就職希望者が大半であるが、

サービス業の就職も少なからずある。しかし、ファッション・ブライダル関連については、希望は少ないようである。

参考文献

- 1) 樋掛英里(2015)「ファッション教育における専門家育成のための授業内容における一考察ー学生のキャリアプランニング支援を目的とした、ファッションビジネス授業ー」日本ビジネス実務学会『ビジネス実務論集』第33号
- 2) 下窪美咲・村上かおり・鈴木明子(2016)「家庭科着装学習における自己表出の在り方の検討ー中学生及び高校生の被服関心とセルフ・モニタリングとの関係性ー」日本家政学会誌第67号
- 3) マーケターのための学生生活研究所 株式会社オーシャナイズ調べ <http://lab.oceanize.co.jp/bridal-ranking/>
平成28年12月26日取得

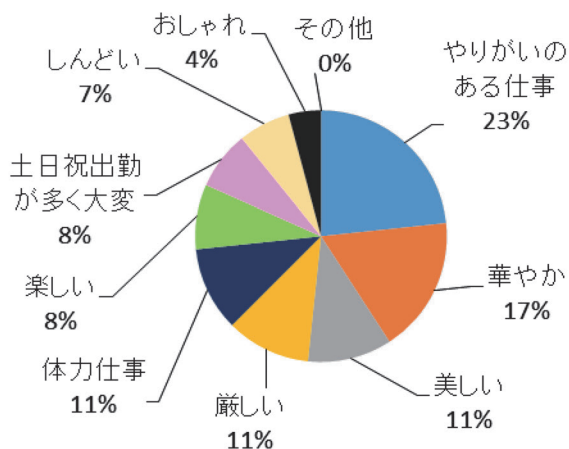


図10 ウェディング業界のイメージ

まとめ

今回の調査を受け、カリキュラムや施設設備について一定の改善の必要があることがわかったが、授業の大きな目的である、豊かなライフデザイン形成に資する科目であることは確認できた。

科目履修の充実を試みるため、今年度、新たに行った取り組みとして、全米ブライダルコンサルタント協会(ABC協会)³⁾認定校への参入があり、ABC協会認定ブライダルプランナー検定3級認定試験の学内受験実施が可能となった。

今後、カリキュラム改善と施設設備の充実を計りながら、職業人としての意識を高めることも視野に入れ、地域貢献や企業との連携により、当該科目の履修意義を高めていきたい。

注

- 1) 学びの領域は、「ライフデザイン」、「情報」、「キャリアデザイン」、「文化と社会」、「医療・介護・福祉」の5科目群で構成される。
- 2) 調査対象者は調査時(平成28年9月)において2年生に在籍していた。
- 3) Association of Bridal Consultants

